



学校だより

横浜市立六つ川台小学校
平成30年7月2日

7月号

URL:<http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/mutsukawadai/>
E-mail:y3mutukd@edu.city.yokohama.jp

地域社会と子どもの成長

校長 滝本 俊一

梅雨時ではありますが、6月は、6年生の鎌倉探検や5年生の宿泊体験学習、4年生の社会科見学等、いずれも天候に恵まれ充実した活動をすることができました。また、1年生は朝顔を、2年生はミニトマトなどの野菜を、3年生はひまわりやホウセンカをそれぞれ育てています。どの学年の子どもたちも水やりなどのお世話をがんばり、成長の様子をしっかりと記録カードにかいています。記録カードからは植物の成長を楽しみにしている子どもたちの姿が見て取れます。

さて、先日、本校の「まちとともに歩む学校づくり懇話会」を開催させていただきました。会長を担っていただいております大丸町内会長の三石様をはじめ、学区の自治会長の皆様、スポーツ推進委員の方、はまっ子ふれあいスクールのチーフパートナーの方々から学校の教育活動や日頃の子どもたちの様子などについてお話をいただきました。地域の皆様からは、「子どもの表情が素直」という感想や「自分自身を守る力が低くなったのではないか」というご意見をいただきました。また、「子どもは宝である」とか「もっと子どものことを考えなければいけない時代になった」というお言葉もいただきました。

子どもたちは、家庭や学校だけでなく地域社会の中でも生活しています。家庭や学校では甘えることができても、地域社会では甘えてばかりもいられません。さらに、学校を卒業して社会に出ると、わがままは通用しません。いやなことがあっても我慢しなければならないこともたくさんあります。また、いい加減な取り組み方をすると、周りの人に迷惑をかけることにもなります。自分の行動に責任が生じます。これらのことを、ほんの一端ではありますが、子どもたちが地域社会の中で経験することは、大変、意義のあることだと思います。

徳川家康に関してこんな話があります。それは、家康が8歳で今川家に人質となった時の話です。今川義元は家臣に「この後、竹千代（家康の幼名）には、出来る限りむごい仕打ちを加えよ」と命じました。「出来る限りむごい仕打ち」とはどんなものだったのでしょうか。それは、私のイメージするものとは全く違うものでした。義元が言うむごい仕打ちとは、「何不自由なく過ごさせてやれ。暑いときは涼しくしてやり、寒いときは暖をとってやれ。決してひもじい思いをさせないで、欲しいものは何でも与えよ。願いは必ず聞いてやれ。」というものだったのです。義元は、何不自由なく生活させることによって、竹千代の心身が墮落するのを待ち骨抜き状態にして、将来、決して自分に逆らえないようにしようとしたのです。

「かわいい子には旅をさせろ」「若い時の苦労は買ってでもせよ」などのことわざもありますように様々な体験が、子どもたちの成長の糧になります。これからも、子どもたちが地域に出て、いろいろな人に出会い様々な体験ができるよう、地域の皆様、保護者の皆様、学校が連携して取り組んでいきたいと思っています。今後とも、御理解、御協力のほど、よろしくお願ひ申し上げます。